

# 教育シラバス

syllabus

(授業計画)

救急救命学科

学校法人 阿弥陀寺教育学園

国際医療福祉専門学校七尾校

科目名	☆基礎数学	担当 教員	中村 重律	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
1年次 前期	1単位 15時間				
授業形態	講義				
講義の概要					
<p>観測データをコンピュータなどで解析するのに必要な、基礎的な数学を学ぶ。 SPIにおける計算能力（割合、割引、速度算、三角関数）の理解を深め、習得する。</p>					
教科書、教材等			成績評価の方法		
<p>教科書： 資料を随時配布</p> <p>つながる高校数学 ベレ出版 参考書： 新しい数学2・3 東京書籍 数学Ⅱ 数研出版</p>			<p>100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。その他、授業態度、出席率、課題レポートも考慮した総合的判断により単位認定を行なう。</p>		
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名		
1	一般的な数式や計算方法の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題プリントを実施。</li> <li>・ 課題を解き、誤答箇所を自ら直す。</li> <li>・ 計算の学力の把握及び向上。</li> </ul>	中村		
2	割合				
3	割引				
4	速度算 1				
5	速度算 2				
6	三角比 1				
7	三角比 2				
8	まとめ				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	情報科学	担当 教員	大角 幸治	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 前期	2単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
<p>基本的なパソコンの設定から電子メール、ワープロ、表計算、プレゼン等のアプリケーションソフトの使い方を学び、電子カルテの基本的な操作まで学ぶ。すでに使用してある程度使いこなしている学生もいると思うが、我流で使っている場合が多く、データを扱う上でのマナーを無視している場合が多い。基本的なマナーを確認しながら授業を進める。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
<p>教科書： 教材を適宜配布する。</p> <p>参考書：</p>			<p>学則に従う。出席率や授業中の態度も考慮して総合的に評価する。定期試験には実際にパソコンを操作する実技試験も含まれる。</p>	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	オリエンテーション、情報セキュリティについて		<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題プリントを実施。</li> <li>・課題を解き、誤答箇所を自ら直す。</li> <li>・計算の学力の把握及び向上。</li> </ul>	大角
2	インターネット、文献検索			
3	電子カルテ SOAPでの記入			
4	パソコンの基本設定			
5	ワードの基本操作			
6	ワードでの文書の作成			
7	ワードでのレポートの作成			
8	電子メール（WEBメール）の使い方			
9	エクセルの基本操作			
10	エクセルでのデータ処理、統計処理			
11	エクセルでのグラフ作成			
12	パワーポイントの基本操作			
13	パワーポイントでプレゼンする			
14	オフィスソフトの連携			
15	パソコン操作実技試験			

科目名	☆運動科学	担当 教員	井上 明浩	連絡先	
対象学年	単位数			教員室	
1年次 前期	2単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
授業形態	講義				
講義の概要					
人間にとって運動の必要性和スポーツがからだに働きかけてその能力を考えていく知識、方法等を科学的な事実を通して学んでいく。また、障害者に対するスポーツ指導の基礎知識を学ぶ。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 教材を適宜配布する。  参考書：			出席率や課題レポート等を考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名		
1	文化としてのスポーツ①	各学習課題について配布資料を中心に講義形式で行う。	井上		
2	文化としてのスポーツ②				
3	障害者スポーツの意義と理念①				
4	障害者スポーツの意義と理念②				
5	障害者福祉施策と障害者スポーツ①				
6	障害者福祉施策と障害者スポーツ②				
7	障害者スポーツにおける安全管理				
8	公益財団法人日本障害者スポーツ協会公認 障害者スポーツ指導者制度				
9	全国障害者スポーツ大会の概要				
10	障害の理解とスポーツ（身体障害）				
11	障害の理解とスポーツ（内部障害）				
12	障害の理解とスポーツ（知的障害）				
13	障害の理解とスポーツ（精神障害）				
14	障害の理解とスポーツ（高齢者）				
15	まとめ				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆運動科学実習	担当 教員	井上 明浩	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 前期	1単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	実習			
講義の概要				
一般的な体力トレーニング方法を実践しながら学ぶ。また、全国スポーツ障害者スポーツ大会の目的と意義を理解し、障害者に対するスポーツ指導の理論を学び実践する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 障害者スポーツ指導教本 初級・中級 改訂版 (ぎょうせい) 参考書： 全国障害者スポーツ大会 競技規則集 (解説付) 日本障害者スポーツ協会編			筆記試験 (100%) その他：授業の出席率、参加態度により総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	トレーニング論	各学習課題について講義および実技を取り入れて行う。	井上	
2	スポーツ心理学			
3	スポーツと栄養			
4	障害者のスポーツ指導における留意点			
5	全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義			
6	全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割			
7	全国障害者スポーツ大会の実施競技			
8	全国障害者スポーツ大会の障害区分①			
9	全国障害者スポーツ大会の障害区分②			
10	障害者とのスポーツ交流準備①			
11	障害者とのスポーツ交流準備②			
12	石川県障害者スポーツ協会主催の障害者スポーツ教室並びに講習会への参加 (カローリング、卓球バレー)			
13				
14	石川県障害者スポーツ大会への運営ボランティア「スポーツパートナー」としての参加			
15				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆生命倫理学	担当教員	大貫 真二	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 前期	1単位 15時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
人間としての価値を学び考え、社会を構成する一人として正しく生活することができる。 また、職業人としての在り方、規範を学び誇り高く専門職として社会に貢献することができる。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 資料を随時配布  参考書：			定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	倫理とは 人権と倫理その定義と歴史		各学習課題について配布資料を中心に講義形式で行う。	大貫
2	患者の権利と生命倫理 生殖医療			
3	患者の権利と生命倫理 脳死・臓器移植			
4	患者の権利と生命倫理 終末期医療			
5	インフォームド・コンセントと意思決定の支援			
6	医療者－患者関係におけるコミュニケーション			
7	患者中心の医療とチーム医療			
8	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	心理学入門	担当教員	大角 幸治	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 前期	1単位 15時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
人間理解の基礎を学ぶ（人間の心のしくみと行動）。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 心理学 第2版 （サイエンス社） 参考書： 適宜、資料配布			<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト（講義前に前回の復習として実施） 35点（5点×7回）</li> <li>・授業態度やノート 5点</li> <li>・定期試験 60点</li> </ul>	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	心理学とは	各学習課題について配布資料を中心に講義形式で行う。	大角	
2	感覚と知覚と認知			
3	学習のメカニズム			
4	記憶のメカニズム			
5	情動・意欲・動機づけのメカニズム			
6	心の発達			
7	防衛反応(適応反応) と障害の受容過程			
8	性格、対人関係			

科目名	☆教育学	担当 教員	高比良 美香	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 メールで時間を確認後、教員室		
1年次 前期	1単位 15時間				
授業形態	講義				
講義の概要					
臨床に出てから職業人として成長していく上で後輩を育成することは大切な仕事のひとつである。そのために必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて伝達できる能力を身につける。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 教材を適宜配布する。  参考書：			理学療法学科・作業療法学科教務内規に従う。 出席の毎回のレポート80%、レポート20%。		
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名	
1	オリエンテーション		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題プリントを実施。</li> <li>・ 課題を解き、誤答箇所を自ら直す。</li> <li>・ 計算の学力の把握及び向上。</li> </ul>	高比良	
2	教育について				
3	教育対象の心理や行動について				
4	コミュニケーション能力について				
5	教育技法について				
6	生涯学習について				
7	グループ発表準備				
8	グループ発表（試験）				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆英語会話	担当 教員	栗林 潤	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 前期	2単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
様々なテーマについて、賛成、反対の英語表現を学ぶとともに、自分の意見をまとめ、相手の意見を理解する練習を通して、ディスカッションやディベートができるようにする。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 随時資料を配布する。  参考書：			レポート、記述試験、ならびに授業の出席率、参加態度により総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	自己紹介・授業流れ・評価説明	各自、できる限り英語を用いて自己紹介をする。英語文章の作成、発音、会話練習	栗林	
2	自己紹介 英語文章の作成、発音、会話練習			
3	国・文化紹介 英語文章の作成、発音、会話練習	英語文章の作成、発音、会話練習		
4	県の紹介 英語文章の作成、発音、会話練習	英語文章の作成、発音、会話練習		
5	目標の紹介 英語文章の作成、発音、会話練習	英語文章の作成、発音、会話練習		
6	1回～5回までのSpeaking Test	Speaking Test		
7	飛行場での入国の英語	動画視聴、グループSpeaking		
8	ホテルでのチェックインの英語	グループSpeaking+筆記		
9	レストランでの注文、会計時の英語	グループSpeaking+筆記		
10	買い物での注文、サイズ確認などの英語	グループSpeaking+筆記		
11	人が具合が悪い時に使う英語	グループSpeaking+筆記		
12	8回～11回までの復習	グループSpeaking+筆記		
13	「映画」により英語を楽しく学ぶ過程を知る	海外の映画を鑑賞して英語に関連するレポートを作成。		
14	まとめと復習	定期試験を含める 【面接形式Speaking】		
15	まとめと復習	定期試験を含める 【面接形式Speaking】		

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	医学英語	担当 教員	由久保弘明	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
1年次 後期	1単位 15時間				
授業形態	講義				
講義の概要					
臨床で使われている医学用語を学ぶ。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 教材を適宜配布する。  参考書：			マーク試験（80％）＋小テスト（10％）＋ノート（10％） 合格基準：得点率60％以上		
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名	
1	身体、診療科、専門職種の名義について		各学習課題について配布資料を中心に講義形式で行う。	由久保	
2	骨格、関節の運動方向の名義について				
3	医学用語の成立ちの法則				
4	問診について				
5	医学専門用語、略語について				
6	疾患名、障害名について①				
7	疾患名、障害名について②				
8	医療器具の名義について				

科目名	就職対策講座 I	担当教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 後期	15コマ 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
公務員試験に向けて着実に実力が付くよう概説する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 地方初級教養試験過去門350（実務教育出版） 参考書： 地方公務員初級模擬試験（TAC出版）			教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	数的推理 整数、比と割合	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	福田	
2	数的推理 方程式、不等式、数列			
3	数的推理 早さ、最大値			
4	数的推理 集合算、仕事算			
5	数的推理 確立			
6	数的推理 多角形、円			
7	判断推理 順序、位置、対応関係			
8	判断推理 数量関係			
9	判断推理 論理、真偽			
10	判断推理 暗号、操作手順			
11	判断推理 軌跡、移動			
12	判断推理 立体図形、展開図			
13	まとめ まとめ			
14	作文 作文練習			
15	作文 作文練習			

科目名	就職対策講座Ⅱ	担当 教員	福田 聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 前期	2単位 30時間			
授業形態	講義			
公務員試験に向けて着実に実力が付くよう概説する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 地方初級教養試験過去門350（実務教育出版） 参考書： 地方公務員初級模擬試験（TAC出版）			教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	数的推理	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	福田	
2	数的推理			
3	数的推理			
4	数的推理			
5	数的推理			
6	数的推理			
7	判断推理			
8	判断推理			
9	判断推理			
10	判断推理			
11	判断推理			
12	判断推理			
13	まとめ			
14	作文			
15	作文			

科目名	公務員試験対策講座 I	担当 教員	福田聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 後期	2単位 30時間			
講義の概要				
最近の出題傾向を中心に地方初級試験に的を絞り着実に実力が付くよう概説する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 地方初級教養試験過去門350（実務教育出版） 参考書： 地方公務員初級模擬試験（TAC出版）			教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	数的推理	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	福田	
2	数的推理			
3	数的推理			
4	数的推理			
5	数的推理			
6	数的推理			
7	判断推理			
8	判断推理			
9	判断推理			
10	判断推理			
11	判断推理			
12	判断推理			
13	まとめ			
14	作文			
15	作文			

科目名	公務員試験対策講座Ⅱ		担当教員	福田 聖司 笠間 悟	連絡先	
対象学年	単位数			教員室		
3年次 前期	4単位	60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
授業形態	講義					
講義の概要						
最近の出題傾向を中心に地方初級試験に的を絞り着実に実力が付くよう概説する。						
教科書、教材等				成績評価の方法		
教科書： 地方初級教養試験過去門350（実務教育出） 参考書： 地方公務員初級模擬試験（T A C出版）				教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題			学習内容並びに方法	教員名	
1	文書理解Ⅰ	16	数学Ⅰ	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。 1. 左記以外に公務員模試を10回実施	福田 笠間	
2	文書理解Ⅱ	17	数学Ⅱ			
3	判断推理Ⅰ	18	数学Ⅲ			
4	判断推理Ⅱ	19	物理Ⅰ			
5	判断推理Ⅲ	20	物理Ⅱ			
6	判断推理Ⅳ	21	物理Ⅲ			
7	数的推理Ⅰ	22	化学Ⅰ			
8	数的推理Ⅱ	23	化学Ⅱ			
9	数的推理Ⅲ	24	化学Ⅲ			
10	数的推理Ⅳ	25	生物Ⅰ			
11	資料解釈Ⅰ	26	生物Ⅱ			
12	資料解釈Ⅱ	27	生物Ⅲ			
13	模擬試験Ⅰ	28	地学Ⅰ			
14	模擬試験Ⅱ	29	地学Ⅱ			
15	まとめ	30	まとめ			

科目名	☆解剖学	担当教員	由久保 弘明	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
1年次 前期	2単位 30時間			
授業形態	講義			
講義の概要				
<p>神経学、内臓学、感覚器を中心とした身体の構造を学ぶ。 随時、小テストおよび単元別テストを実施し、段階的に学習状況を確認していく。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
<p>教科書： 救急救命士標準テキスト 上巻</p> <p>参考書：</p>			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		講義形式	教員名
1	人体の概要と解剖学用語		各学習課題についてPCプレゼンテーションなどによる講義形式で行う。	由久保
2				
3	人体の構成			
4				
5	内臓学（呼吸器系・循環器系を除く）			
6				
7				
8	感覚器系			
9				
10	循環器系（1）			
11	呼吸器系（1）			
12	筋骨格系（総論）			
13				
14	神経系（総論） 神経系区分、構成、脳、脊髄、意識、伝導、反射			
15				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆生理学	担当 教員	由久保 弘明	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 後期	2単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
救急処置に必要な生理学の基礎知識を学ぶ				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト 第1巻  参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		講義形式	教員名
1	血液		各学習課題についてPCプレゼンテーションなどによる講義形式で行う。	由久保
2				
3	消化と吸収			
4				
5				
6	腎臓と排泄			
7				
8				
9	循環器系			
10				
11	呼吸器系			
12	内分泌			
13				
14	末梢神経系（脳神経）			
15				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆検査学	担当 教員	高位 輝昭	連絡先	
対象学年	単位数			教員室	
2年次 後期	1単位 15時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
授業形態	講義				
講義の概要					
画像診断を行うための様々な検査法（単純・造影X線写真、CT、MRI、超音波検査、血管撮影など）の原理と臨床応用の実際について学ぶ。リハビリテーション分野での主な対象である骨関節疾患、脳血管障害をはじめとする神経疾患などの画像診断の特徴的な所見などについて学習する。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 基礎から学ぶ画像の読み方（医歯薬出版） 参考書： 画像診断コンパクトナビ（医学教育出版社）			筆記試験（100%）と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名	
1	画像診断学総論		各学習課題について教科書、PCプレゼンテーションなどによる講義形式で行う。	高位	
2	造影X線・MRI・CT写真の原理と臨床の実際				
3	骨関節障害について（脊柱）				
4	骨関節障害について（上肢・下肢）				
5	脳（脳梗塞、その他の脳障害）				
6	脳（脳出血、その他の脳障害）				
7	内臓（X線画像・CT・MRIでの基本部位の確認）				
8	内臓（疾患の読み撮り方）				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆病理学	担当 教員	由久保弘明	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
2年次 前期	2単位 30時間				
授業形態	講義				
講義の概要					
<p>疾病の原因および形態的变化を、主要疾病と関連させながら基本的内容について学ぶ。</p>					
教科書、教材等			成績評価の方法		
<p>教科書： 教材を適宜配布する。</p> <p>参考書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学（医学書院）</p>			<p>マークシート形式による試験（80%）と課題レポート（20%）を考慮して総合的に評価する。</p>		
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名		
1	第1～3-1章（概要、病因論、退行性病変）	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	由久保		
2	第3-2章（進行性病変）				
3	第4-1章（代謝異常 蛋白、脂質、糖質）				
4	第4-2章（代謝異常 無機質、色素）				
5	第5-1章（循環障害）				
6	第5-2章（循環障害）				
7	第6-1章（免疫）				
8	第6-2（自己免疫疾患） 第7-1章（炎症）				
9	第7-2章（感染症）				
10	第7-3章（感染症）				
11	第8章（腫瘍） 第9章（老化）				
12	第10章（染色体とDNA） 第11章（先天異常）				
13	各論 第1～3章（循環器、呼吸器、消化器1）				
14	各論 第3～4章（消化器2、神経系1）				
15	各論 第4章（神経系2,3） 第5章（運動器）				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆薬理学	担当 教員	宮川 大輔	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 前期	2単位 30時間			
授業形態	講義			
講義の概要				
<p>薬理学の主たる目的は、薬物作用、作用機序、治療的応用性などを明らかにすることによって、薬物治療における適切な医薬品の選択、適正な用法の基礎を理解すること。</p>				
			成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版）			教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
参考書：				
回数	学習課題	学習内容並びに方法		教員名
1	薬理学の定義	各学習課題について、スライドを中心に講義形式で行う。		宮川
2	薬の投与経路			
3	生物学的半減期			
4	薬物に影響する因子			
5	薬物中毒			
6	薬の作用点			
7	薬の管理と新薬の誕生			
8	中間試験			
9	救急救命処置に用いる薬剤(拡大2項目)			
10	注意を要する薬剤①			
11	注意を要する薬剤②			
12	輸液・輸血製剤①			
13	輸液・輸血製剤②			
14	保存と管理			
15	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	感染症学	担当 教員	福田 聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 後期	1単位 15時間			
講義の概要				
疾患の成り立ちと回復の過程を理解する。また、死の概念、判定(診断)を理解する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版）  参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法		教員名
1	成長・発達と老化	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。		福田
2	炎症と感染			
3	循環障害・代謝障害			
4	組織の退行性・進行性変化			
5	腫瘍・奇形・損傷・死			
6	感染とその予防			
7	救急活動において重要な感染症			
8	まとめ			

科目名	☆公衆衛生学	担当 教員	辻口博聖	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 後期	1単位 15時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
公衆衛生に関わる法規、行政機関や救急救命士法に関わる法規を学ぶ。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版）  参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	保健医療制度 疾病構造と受療状況の変化	各学習課題について講義形式で行う。	辻口博聖	
2	わが国の医療供給体制 公衆衛生に係る行政組織			
3	環境保健 労働衛生と学校保健			
4	母子保健と老人保健			
5	地域保健と精神保健福祉 歯科保健			
6	保健医療関係法規 救急救命士法			
7	医師法と保健師助産師看護師法 感染症法			
8	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆保健医療福祉概論	担当 教員	大貫 真二	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
1年次 後期	1単位 15時間				
授業形態	講義				
講義の概要					
日本国の社会保障制度や社会福祉制度について理解する。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 教材を適宜配布する。  参考書：			筆記試験（100%） その他：授業の出席率、参加態度により総合的に評価する。		
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名		
1	社会福祉の基礎理論、思想と倫理	各学習課題について講義形式で行う。	大貫		
2	社会福祉の歴史				
3	欧米における社会福祉の史的展開				
4	他国の社会福祉、社会福祉の援助対象				
5	社会福祉のニーズ、社会福祉の制度体系				
6	社会福祉基礎構造、社会福祉の法制度				
7	社会福祉の行政、国の社会福祉財政				
8	社会福祉施設と財政、社会福祉と民間福祉活動				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆救急医学概論 I	担当 教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 前期	2単位 60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
<p>生命倫理と医の倫理（インフォームドコンセントを含む）の基本的な考え方を理解する。地域における救急救命士の役割及びメディカルコントロール体制について理解する。救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る適応や合併症、医療事故対策について理解する。使用できる薬剤の効果や副作用について理解する。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
<p>教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版）</p> <p>救急活動マネジメント実践トレーニング</p> <p>参考書： グーOSCEを取り入れた救急隊員臨床教育（メディカ出版）</p>			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1～2	救急医療体制		<p>各学習課題について教科書や参考書を中心に、PCプレゼンテーションによる講義や実技形式で講義を行い、グループ内でのOSCE（客観的臨床能力試験）を取り入れ実施する。。</p>	福田
3～4	災害医療体制			
5～6	病院前救護体制			
7～8	消防機関における救急活動の流れ			
9～10	救急救命士の役割と責任			
11～12	救急救命士と傷病者の関係			
13～14	救急救命士に関連する法令			
15～16	救急救命士の養成と生涯教育			
17～18	安全管理と事故対応			
19～20	感染対策			
21～22	ストレスに対するマネージメント			
23～24	医療現場でのコミュニケーション(1)			
25～26	医療現場でのコミュニケーション(2)			
27～28	医療現場でのコミュニケーション(3)			
29～30	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆救急医学概論Ⅱ	担当 教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 後期	2単位 60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
<p>傷病者管理における、観察能力の基礎を学ぶ。救急救命士として必要な知識を習得し、傷病者管理の際に必要な、考察能力の向上を目指す。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
<p>教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版）</p> <p>参考書： 救急処置スキルブック（壮道者）</p>			<p>救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。</p>	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1～2	全身の観察 観察の基本・外見の観察		<p>各学習課題について教科書を中心に講義形式及び実習で行う。講義終了後レポート提出を行う。</p>	福田
3～4	全身の観察 バイタルサインの観察①			
5～6	全身の観察 バイタルサインの観察②			
7～8	全身の観察 神経学的所見の観察①			
9～10	全身の観察 神経学的所見の観察②			
11～12	局所所見の観察 観察の基本・皮膚所見の観察			
13～14	局所所見の観察 頭部・頸部・顔面の観察①			
15～16	局所所見の観察 頭部・頸部・顔面の観察②			
17～18	局所所見の観察 胸部・腹部の観察①			
19～20	局所所見の観察 胸部・腹部の観察②			
21～22	局所所見の観察 四肢の観察①			
23～24	局所所見の観察 四肢の観察②			
25～26	重症度・緊急度の判断 重症度・緊急度①			
27～28	重症度・緊急度の判断 重症度・緊急度②			
29～30	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆救急医学概論Ⅲ	担当 教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	教員室
1年次 後期	2単位 60時間			
授業形態	講義			
講義の概要				
傷病者管理における、各種処置の基礎を学ぶ。救急救命士として必要な知識を習得し、傷病者管理の際に必要な、各種処置の知識向上を目指す。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
改定第9版 教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版） 参考書： 救急処置スキルブック（壮道者）			筆記試験（60%）と課題レポート（30%）、 授業態度（10%） その他出席率等を考慮して総合的に評価する。 合格基準：得点率60%以上	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1, 2	資器材による観察 P438～444	各学習課題について教科書を中心に講義及び実技形式で行う。重要な資器材、手技などについてはレポート課題を設け実施。	福田	
3, 4	資器材による観察 P444～454			
5, 6	救急救命士が行う処置 P456～気道(A)トラブルの観察と処置			
7, 8	救急救命士が行う処置 P456～気道(A)トラブルの観察と処置			
9, 10	救急救命士が行う処置 P482～呼吸(B)トラブルの観察と処置			
11, 12	救急救命士が行う処置 P491～P499循環(C)トラブルの観察と処置			
13, 14	救急救命士が行う処置 P500～静脈路確保			
15, 16	救急救命士が行う処置 P500～静脈路確保(アドレナリン、エピペン)			
17, 18	救急救命士が行う処置 P511～神経(D)トラブルの観察と処置			
19, 20	(血糖測定、ブドウ糖投与)			
21, 22	体位管理、体温管理、創傷処置、産科領域 P515～543			
23～ 25	救急蘇生法 P544～560			
26, 27	在宅療法継続中の傷病者の処置 P561～568			
28, 29	傷病者の搬送 P569～587			
30	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆救急医学特論	担当 教員	福田 聖司	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
3年次 後期	2単位 60時間				
授業形態	講義				
講義の概要					
国家試験過去問題を中心に解説し、より救急医学概論分野の理解力を深める。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 随時、配布する  参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名	
1	医学概論		各学習課題について実習形式で行う。(1回：2コマ)	福田	
2	公衆衛生学				
3	患者搬送				
4	救急医療				
5	災害医療				
6	観察Ⅰ				
7	観察Ⅱ				
8	処置総論				
9	処置各論				
10	薬理学Ⅰ				
11	薬理学Ⅱ				
12	検査				
13	看護学概論				
14	放射線医学				
15	まとめ				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	救急症候・病態生理学 I	担当教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 後期	2単位 60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
救急症候・病態生理について理解し、症候、病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改定第9版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）  参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1, 2	呼吸不全 P591～P597		各学習課題について教科書を中心に講義及び実技形式で行う。。重要な項目(頭蓋内圧亢進症やウツタイン様式など)についてはレポートや課題として実施を行う。	福田
3, 4	総論～肺間質障害、国家試験対策			
5, 6	心不全 P598～P603			
7, 8	総論～現場活動、国家試験対策			
9, 10	ショック P604～P615			
11, 12	総論～現場活動、国家試験対策			
13, 14	重症脳障害 P616～P622			
15, 16	総論～現場活動、国家試験対策			
17, 18	心肺停止 P624～P633			
19, 20	総論～心拍再開後の病態、国家試験対策			
21, 22	呼吸不全に対する救急アプローチ			
23～ 25	心不全に対する救急アプローチ			
26, 27	重症脳障害に対する救急アプローチ			
28, 29	ショック、CPAに対する救急アプローチ			
30	まとめ			

科目名	救急症候・病態生理学Ⅱ	担当 教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 後期	1単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義・実技			
講義の概要				
心電図モニターの基本知識を断片的に深め、応用となる致命的になるような心電図波形が理解できるようになるまで習得する。また異常心電図になり得るような病態についても勉強する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： モニター心電図レッスン(医学書院)  参考書： 改定第9版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）			筆記試験（80％）230点満点、授業態度・出欠率等を考慮しその他出席率等を考慮して総合的に評価する。（20％）20点満点 ・筆記試験計算式 得点÷230×100×0.8＝定期試験点数 合格基準：得点率60％以上。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	モニター心電図とは P1～P8	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。 重要な項目(危険な心電図波形など)、練習問題についてはレポートや課題として実施を行う。	福田	
2	レッスン1 P10～17 3つのルールで危険な心電図を見極める			
3	レッスン1 P18～P30 3つのルールで危険な心電図を見極める			
4	レッスン2 P30(練習問題)～P39 4つのステップで瞬時に危険な心電図を見極める			
5	レッスン2 P40～P44 4つのステップで瞬時に危険な心電図を見極める			
6	レッスン2 P45～P54(練習問題含む) 4つのステップで瞬時に危険な心電図を見極める			
7	レッスン3 P55(練習問題含む)～P59 危険な心電図波形を緊急度別に覚え、瞬時に判断する			
8	レッスン3 P60～P69 危険な心電図波形を緊急度別に覚え、瞬時に判断する			
9	レッスン3 P74(練習問題)～P78 危険な心電図波形を緊急度別に覚え、瞬時に判断する			
10	特別レッスン1 P79～P84 12誘導心電図を有効に使おう			
11	特別レッスン2 P91～P97(練習問題含む) 慣れれば簡単！心電図の略語に強くなる			
12	救急人形、生体を使用し実際のモニター装着			
13	国家試験などの問題を解き、解説			
14				
15	まとめ			

科目名	救急症候・病態生理学Ⅲ	担当 教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数			教員室
2年次 前期	2単位 60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
救急症候・病態生理学について理解し、症候、病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改定第9版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）  参考書：			筆記試験（40％）100点満点、技試験（40％）100点満点、授業態度・出欠率等を考慮しその他出席率等を考慮して総合的に評価する。（20％）20点満点 ・筆記試験計算式 得点×0.4＝試験点数 ・実技試験計算式 得点×0.4＝試験点数 合格基準：全得点率60％以上。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	心停止の主な原因と発生機序 6H6T		各学習課題についてPCプレゼンテーションなどによる講義形式で行う。	福田
2,3	Hypovolemia 循環血液量減少による心停止			
4,5	Hypo/Hyoerkalemia 低/高カリウム血症による心停止			
6,7	Hypoxia 低酸素血症による心停止			
8,9	Hypothermia 低体温による心停止			
10,11	Hypoglycemia 低血糖による心停止			
12,13	H <sup>+</sup> Acidosis 水素イオン（アシドーシス）による心停止			
14,15	Tention pneumothurax 緊張性気胸による心停止			
16,17	Tamponade 心タンポナーデによる心停止			
18,19	Thrombosis coronary 急性心筋梗塞による心停止			
20,21	Thrombosis puimmonary 肺血栓塞栓症による心停止			
22,23	Toxins 薬物による心停止			
24,25	Trauma 外傷による心停止			
26～29	各疾患救急アプローチ			
30	まとめ			

科目名	☆救急症候・病態生理学IV	担当 教員	後藤 由和 福田 聖司	連絡先	
				金沢大学附属病院 TEL：076-265-2000（代表）	
対象学年	単位数	質問受付時間・場所等 随時・教員室			
2年次 後期	2単位 60時間				
講義の概要					
救急症候・病態生理について理解し、症候、病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書：随時、配布する  参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題			学習内容並びに方法	教員名
1	生命維持	16	頭痛	各学習課題について教科書を中心に、パワーポイントによる資料を配付し、PCプレゼンテーションによる講義や実習形式で行う。 (前期20/30コマを担当)  また、特別講義として静脈路確保および気管内挿管についての講義を実施する。	後藤 福田
2	ショック	17	呼吸困難		
3	心不全	18	動悸		
4	意識障害	19	大量出血/下血		
5	呼吸不全	20	まとめ		
6	心肺停止(1)	21	神経疾患・呼吸疾患		
7	心肺停止(2)	22	循環器疾患・消化器疾患		
8	心肺停止(3)	23	内分泌・代謝疾患・泌尿器・生殖器		
9	嘔吐	24	皮膚疾患・熱傷		
10	運動障害	25	皮膚疾患・熱傷		
11	喀血と吐血	26	特殊感染症		
12	失神	27	血液・免疫疾患・筋・骨格筋疾患		
13	しびれ	28	眼・耳・鼻の疾患		
14	痙攣	29	妊娠・分娩		
15	めまい	30	まとめ		

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	救急症候・病態生理学 特論	担当 教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数		教員室	
3年次 後期	2単位 60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
救急症候・病態生理について理解し、症候、病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 随時、配布する  参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	心肺停止Ⅰ		各学習課題について実習形式で行う。(1回：2コマ)	福田
2	心肺停止Ⅱ			
3	心肺停止Ⅲ			
4	ショックⅠ			
5	ショックⅡ			
6	ショックⅢ			
7	出血Ⅰ			
8	出血Ⅱ			
9	意識障害Ⅰ			
10	意識障害Ⅱ			
11	運動器損傷Ⅰ			
12	運動器損傷Ⅱ			
13	痙攣			
14	脳圧亢進			
15	まとめ			

科目名	☆内部障害学	担当 教員	吉村 光弘 山下 朗	連絡先
対象学年	単位数		教員室	
2年次 前期	1単位 15時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
症候学をはじめとする内科学的知識について学ぶ。呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患、消化器疾患、肝胆膵疾患、心疾患の基礎的な知識を修得する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学（医学書院） 参考書：			マークシート形式による試験（80%）と課題レポート（20%）を考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法		教員名
1	症候学	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。		吉村
2	呼吸器疾患（1）			
3	呼吸器疾患（2）			
4	腎・泌尿器疾患			
5	消化器疾患			
6	肝胆膵疾患			
7	循環器疾患（1）			山下
8	循環器疾患（2）			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆発達障害学	担当 教員	松島 昭廣	所属 独立行政法人国立病院機構 七尾病院
対象学年	単位数			
2年次 前期	1単位 15時間			
授業形態	講義			
講義の概要				
小児疾患の理解に必要な、基本的な症候や疾患の知識について学ぶ。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 分野 小児科学（医学書院）  参考書：			理学療法学科・作業療法学科教務内規に従う。 出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	新生児・未熟児疾患 (胎児期・新生児期・周産期)		各学習課題について教科書を中心 に講義形式で行う。	松島
2	先天異常と遺伝病 (染色体異常・先天奇形・先天代謝異常)			
3	神経・筋・骨系疾患 (中枢神経疾患)			
4	神経・筋・骨系疾患 (てんかん・発達遅滞・脳性まひ)			
5	神経・筋・骨系疾患 (脊髄性疾患・末梢神経疾患)			
6	神経・筋・骨系疾患 (筋・骨・関節疾患)			
7	心身症・神経症			
8	重症心身障害児			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆精神障害学	担当 教員	高田 省吾	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
2年次 前期	1単位 15時間				
授業形態	講義				
講義の概要					
精神疾患あるいは精神障害を有する患者の理解に必要な、基本的な症候や疾患の知識について学ぶ。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 精神神経疾患ビジュアルブック（学研） 参考書：			マークシート形式による試験（80％）と課題レポート（20％）を考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名		
1	精神医学の理解・精神機能の把握	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	高田		
2	痙攣性疾患（てんかん）				
3	気分障害				
4	統合失調症				
5	神経症性障害				
6	ストレス反応および適応障害				
7	生理的・身体的要因に関連する障害				
8	成人の人格・行動障害				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆骨関節障害学	担当 教員	高澤 雅至	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
2年次 前期	1単位 15時間				
授業形態	講義				
講義の概要					
医療専門職に必要な整形外科的知識について学ぶ。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 整形外科疾患ビジュアルブック (Gakken)  参考書：			マークシート形式による試験（80％）と課題レポート（20％）を考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名		
1	(総論) 4-5 慢性関節疾患	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	高澤		
2	(総論) 4-6 関節リウマチと強直性脊椎炎				
3	(総論) 4-8 末梢神経障害 (1)				
4	(総論) 4-8 末梢神経障害 (2)				
5	(総論) 4-9 深部静脈血栓症 4-10 腱・腱鞘の疾患				
6	(各論) 6-2 頸椎・脊椎 (1)				
7	(各論) 6-2 頸椎・脊椎 (2)				
8	(各論) 6-3 胸椎 6-4 腰椎 (1)				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆神経筋障害学	担当 教員	橋井 美奈子	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
2年次 前期	1単位 15時間				
授業形態	講義				
講義の概要					
脳神経系に生じる各種疾患について概説する。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 病気がみえる vol.7 脳・神経 (メディックメディア) 参考書：			マークシート形式による試験（80%）と課題レポート（20%）を考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名		
1	神経系の構造と機能障害	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	橋井 美奈子		
2	脳血管障害の総論				
3	脳梗塞、くも膜下出血（SAH）				
4	脳出血				
5	頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア				
6	水頭症				
7	顔面神経麻痺、Wallenberg症候群				
8	Brown-sequard症候群				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆疾病救急医学特論	担当教員	後藤 由和 福田 聖司		連絡先	
					金沢大学附属病院 TEL：076-265-2000（代表）	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室			
2年次 前期	2単位 60時間					
授業形態	講義					
講義の概要						
各種疾患（小児、高齢者を含む）の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。						
教科書、教材等				成績評価の方法		
教科書：随時、配布する  参考書：				救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題			学習内容並びに方法		教員名
1	神経疾患（1）	16	高齢者疾患	各学習課題について教科書を中心に、パワーポイントによる資料を配付し、PCプレゼンテーションによる講義や実習形式で行う。		後藤 福田
2	神経疾患（2）	17	精神疾患（1）			
3	呼吸器疾患（1）	18	精神疾患（2）			
4	呼吸器疾患（2）	19	まとめ 試験			
5	循環器疾患（1）	20	特別講義：院外心停止			
6	循環器疾患（2）	21	神経疾患・呼吸疾患			
7	循環器疾患（3）	22	循環器疾患・消化器疾患			
8	心電図	23	内分泌・代謝疾患・泌尿器・生殖器			
9	消化器疾患（1）	24	皮膚疾患・熱傷			
10	消化器疾患（2）	25	皮膚疾患・熱傷			
11	内分泌・代謝疾患	26	特殊感染症			
12	血液・免疫疾患	27	血液・免疫疾患・筋・骨格筋疾患			
13	皮膚疾患・熱傷	28	眼・耳・鼻の疾患			
14	小児疾患（1）	29	妊娠・分娩			
15	小児疾患（2）	30	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆外傷救急医学 I - 1	担当教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 後期	2単位 60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	実習			
講義の概要				
外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改定第2版 JPTECガイドブック(ヘルス出版)  参考書： 改定第9版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)			筆記試験(40%)290点満点、技試験(40%)100点満点、授業態度・出欠率等を考慮しその他出席率等を考慮して総合的に評価する。(20%)20点満点 ・筆記試験計算式 得点÷290×100×0.4=試験点数 ・実技試験計算式 得点×0.4=試験点数 合格基準：得点率60%以上。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	第1章 JPTECの概念 第2章 JPTECの活動 P1~P18	講義形式	福田	
2	第2章 JPTECの活動 P20~P31 外傷に伴う状況評価について	各学習課題について教科書を中心に講義及び実技形式で行う。 実際の現場写真などを提示し、想像力を育ませ、グループディスカッションなどを実施する。 重要な資器材、手技などについてはレポート課題を設け実施。		
3	第2、3章 JPTECの活動と基本手技 頸椎カラーの装着、ヘルメット離脱方法			
4	SMR(脊椎運動制限)・ログロール、バックボード・スクープストレッチャーの使い方			
5	第2章 JPTECの活動 P32~P47 外傷に伴う初期評価(生理学的評価)についてと			
6	緊急処置(CABC頸椎保護、BVM換気など)			
7	第2章 JPTECの活動 P48~P89 外傷に伴う全身観察(解剖学的評価)について			
8	(TAFな開緊血を見るぞ) 7. 頭部~顔面・頸部			
9	8. 胸部~腹部 9. 骨盤・大腿部・四肢・背面			
10	8. 生命を脅かす疾患の発生機序と処置			
11	(三辺テーピング・半周固定・ラッピング・穿通性異物の固定、四肢固定)			
12	第4章 処置			
13	11. ターニケットの基礎知識と装着方法 12. サムスリングの基礎知識と装着方法			
14	13. 実技形式(判断と方法)			
15	第2章 JPTECの活動 P90~P97 重点観察と継続観察			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆外傷救急医学 I - 2	担当 教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 後期	2単位 60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	実習			
講義の概要				
外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改定第2版 JPTECガイドブック(ヘルス出版)  参考書： 改定第9版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)			筆記試験(40%)290点満点、技試験(40%)100点満点、授業態度・出欠率等を考慮しその他出席率等を考慮して総合的に評価する。(20%)20点満点 ・筆記試験計算式 得点÷290×100×0.4=試験点数 ・実技試験計算式 得点×0.4=試験点数 合格基準：得点率60%以上。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
16	第2章 JPTECの活動 P100～P103 車内収容後の活動		各学習課題について教科書を中心に講義及び実技形式で行う。 実際の現場写真などを提示し、想像力を育ませ、グループディスカッションなどを実施する。 重要な資器材、手技などについてはレポート課題を設け実施。	福田
17	車内活動・ファーストコール(MIST)・セカントコール			
18	JPTECに基づく基礎実技 状況評価～車内収容後の活動			
19	*輸液は含まない			
20	第2章 JPTECの活動 P104～P107 外傷傷病者に対する輸液			
21	【講義】輸液の基礎知識			
22	【講義・実技】静脈路確保、指示要請			
23	JPTECに基づく基礎実技 状況評価～車内収容後の活動			
24	*輸液を含む			
25	第5章 特殊病態 P177～P198			
26	第6章 現場トリアージ・医療機関選定 P199～P208			
27	第7章 JPTECを取り巻く環境 P199～P247 *災害トリアージについてはSTRT法、PAT法実技			
28				
29	総合実技			
30	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆外傷救急医学Ⅱ	担当 教員	福田聖司	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
2年次 前期	1単位 30時間				
授業形態	実習				
講義の概要					
<p>外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>					
教科書、教材等			成績評価の方法		
<p>教科書： 救急救命士標準テキスト上下巻（へるす出版）</p> <p>参考書：</p>			<p>救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。</p>		
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名	
1	外傷総論		各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	福田	
2	受傷機転				
3	受傷機転Ⅱ				
4	外傷性ショック				
5	外傷性ショックⅡ				
6	現場活動				
7	現場活動Ⅱ				
8	現場活動Ⅲ				
9	頭部外傷				
10	頭部外傷Ⅱ				
11	顔面・頸部外傷				
12	脊椎・脊髄外傷				
13	胸部外傷				
14	胸部外傷Ⅱ				
15	まとめ				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆外傷救急医学Ⅲ	担当 教員	福田聖司	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
2年次 後期	1単位 30時間				
講義の概要					
外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 救急救命士標準テキスト上下巻（へるす出版） 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名		
1	腹部外傷	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	福田		
2	骨盤・四肢外傷				
3	皮膚・軟部組織外傷				
4	多発外傷				
5	妊婦・小児・高齢者の外傷				
6	スポーツ外傷				
7	熱傷Ⅰ				
8	熱傷Ⅱ				
9	電撃症				
10	化学損傷Ⅰ				
11	化学損傷Ⅱ				
12	異物				
13	縊頸・絞頸				
14	刺咬症、外傷に関連する特殊感染症				
15	まとめ				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆外傷救急医学特論	担当 教員	福田 聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
3年次 後期	2単位 60時間			
授業形態	講義			
講義の概要				
外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 随時、配布する 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	顔面・頸部Ⅰ		各学習課題について実習形式で行う。(1回：2コマ)	福田
2	顔面・頸部Ⅱ			
3	一般外傷Ⅰ			
4	一般外傷Ⅱ			
5	頭部・頸椎外傷Ⅰ			
6	頭部・頸椎外傷Ⅱ			
7	熱傷・電撃症Ⅰ			
8	熱傷・電撃症Ⅱ			
9	化学損傷Ⅰ			
10	化学損傷Ⅱ			
11	中毒Ⅰ			
12	中毒Ⅱ			
13	溺水			
14	その他			
15	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	環境障害・急性中毒学	担当 教員	福田 聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 後期	1単位 30時間			
講義の概要				
環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改定第9版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）  参考書：			筆記試験（40％）100点満点、技試験（40％）100点満点、授業態度・出欠率等を考慮しその他出席率等を考慮して総合的に評価する。（20％）20点満点 ・筆記試験計算式 得点×0.4＝試験点数 ・実技試験計算式 得点×0.4＝試験点数 合格基準：全得点率60％以上。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	中毒総論～中毒各論 p 1056～P1081	各学習課題について教科書を中心に講義及び実技形式で行う。実際の現場写真などを提示し、想像力を育ませ、グループディスカッションなどを実施する。重要な資器材、手技などについてはレポート課題を設け実施。 *救急アプローチとあ 現場活動	福田	
2	国家試験対策問題			
3	中毒に対する救急アプローチ			
4				
5	異物 P1083～P1087 国家試験対策			
6	異物に対する救急アプローチ			
7	溺水 P1083～P1087 国家試験対策			
8	溺水に対する救急アプローチ			
9	熱中症 P1092～P1099 国家試験対策			
10	熱中症に対する救急アプローチ			
11	偶発性低体温 P1092～P1099 国家試験対策			
12	偶発性低体温に対する救急アプローチ			
13	放射線障害、その他の環境障害 P1104～P1125			
14	放射線障害、その他の環境障害 国家試験対策			
15	まとめ			

科目名	☆基礎演習	担当 教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	教員室
1年次 前期	1単位 45時間			
授業形態	実習			
講義の概要				
医療従事者、救急救命士としての礼節とコミュニケーション能力を身につける。 基礎的な医学的知識、スキルを身につける。 救急資器材等を使用し、模擬傷病者に対し実践できるよう基礎的能力を身につける。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版） 救急技術マニュアル（東京法令）  参考書： 救急処置スキルブック（壮道者） 救急活動マネジメント実践トレーニング（メディカ出版）			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1～2	コミュニケーション レーニング1(まとめ含む)	各学習課題について教科書を中心に講義と実技をOSCE(客観的構造化臨床評価)形式で行う。	福田	
3～4	意識レベル(JCS/GCS)評価 トレーニング2(まとめ含む)			
5～6	呼吸の観察 トレーニング3(まとめ含む)			
7～8	脈拍の測定 トレーニング4(まとめ含む)			
9～10	血圧の測定 トレーニング5(まとめ含む)			
11～12	体温の測定 トレーニング6(まとめ含む)			
13～14	SpO2の測定 トレーニング7(まとめ含む)			
15～16	まとめ トレーニング1～トレーニング7			
17～18	頭頸部観察 トレーニング8(まとめ含む)			
19～20	胸部観察 トレーニング9(まとめ含む)			
21～22	腹部観察 トレーニング10(まとめ含む)			
23	神経学的所見観察 トレーニング11(まとめ含む)			
24	まとめ トレーニング1～11			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆応急処置 I	担当 教員	玉村 豊和	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
1年次 前期	2単位 90時間			
授業形態	実習			
講義の概要				
習得した知識や救急隊員（救急標準課程）として必要な技術を病院前救護において実践できるよう基礎的能力を身につける。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版） 救急技術マニュアル（東京法令）  救急処置スキルブック（壮道者） 参考書： 救急活動マネジメント実践トレーニング （メディカ出版）			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1～3	CPCR検証	オリエンテーション・CPCR手技復習	各学習課題について教科書を中心に講義と実技をOSCE(客観的構造化臨床評価)形式で行う。講義終了後、レポート提出を行い、今後の課題と目標を明確化させる。	玉村
4～6	観察用資器材	心電計の装着・心電図の読み取り		
7～9	特定行為基本	LM		
10～12	特定行為基本	LTチューブ		
13～15	特定行為基本	スミウエイ		
16～18	特定行為基本	気道確保隊活動		
19～21	特定行為基本	気道確保隊活動		
22～24	特定行為基本	静脈路確保		
25～27	特定行為基本	静脈路確保隊活動		
28～30	想定訓練	循環器疾患		
31～33	想定訓練	呼吸器疾患		
34～36	想定訓練	頭蓋内病変		
37～39	想定訓練	まとめ		
40～42	想定訓練	まとめ		
43～45	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆応急処置Ⅱ-1	担当 教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 後期	2単位 90時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	実習			
講義の概要				
習得した知識や救急救命士として必要な技術を病院前救護において実践できるよう基礎的能力を身につける。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版） 救急技術マニュアル（東京法令）  救急処置スキルブック（壮道者） 参考書： 救急活動マネジメント実践トレーニング（MCメ ディカ出版）			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	CPCR基本想定（ASYS/PEA）：CPCR基本手技訓練 活動場所【屋内・屋外・救急車内】		各学習課題について基本的には実技形式で行う。 実技場所を屋内や屋外、実際の救急車内で行うなどし、救急現場での想像力を育ませる。終了後はグループディスカッションなどを実施しその都度フィードバックをする。  救急出動件数が比較的多く、迅速な緊急度判断が必要となる代表的な病態について、教科書などを使用し調べ（こちらで用意した記載シートに）、その後、口頭質問形式により判断基準（知識）の理解度を確認する。	福田
2				
3				
4				
5	CPCR基本想定（VF/VT）：CPCR基本手技訓練 活動場所【屋内・屋外・救急車内】			
6				
7				
8				
9	ABCDEアプローチを理解し、優先順位をつけて観察処置を行うスキルを身に付ける			
10				
11	病態に関する知識トレーニング ①観察項目を理解する ②臨床症状を理解する ③必要な応急処置を理解する ④医療機関で実施する処置治療を理解する ⑤重症度・緊急度の判断と、適切な医療機関選定を理解する （トレーニング代表疾患） くも膜下出血、脳出血、急性心筋梗塞、狭心症、大動脈解離、気管支喘息、肺血栓塞栓症、胃・十二指腸潰瘍、食道静脈瘤破裂、腸閉塞、急性虫垂炎、気道異物、中毒、アナフィラキシー			
12				
13				
14				
15				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆応急処置Ⅱ-2	担当教員	福田 聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
1年次 後期	2単位 90時間			
授業形態	実習			
講義の概要				
習得した知識や救急救命士として必要な技術を病院前救護において実践できるよう基礎的能力を身につける。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版） 救急技術マニュアル（東京法令）  参考書： 救急処置スキルブック（壮道者）			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
16	病態に関する知識トレーニング ①観察項目を理解する ②臨床症状を理解する ③必要な応急処置を理解する ④医療機関で実施する処置治療を理解する ⑤重症度・緊急度の判断と、適切な医療機関選定を理解する （トレーニング代表疾患） くも膜下出血、脳出血、急性心筋梗塞、狭心症、大動脈解離、気管支喘息、肺血栓塞栓症、胃・十二指腸潰瘍、食道静脈瘤破裂、腸閉塞、急性虫垂炎、気道異物、中毒、アナフィラキシー）	救急出動件数が比較的多く、迅速な緊急度判断が必要となる代表的な病態について、教科書などを使用し調べ（こちらで用意した記載シートに）、その後、口頭質問形式により判断基準（知識）の理解度を確認する。	福田	
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆応急処置Ⅱ-3	担当教員	福田 聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
1年次 後期	2単位 90時間			
授業形態	実習			
講義の概要				
習得した知識や救急救命士として必要な技術を病院前救護において実践できるよう基礎的能力を身につける。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版） 救急技術マニュアル（東京法令）  参考書： 救急処置スキルブック（壮道者）			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
31	特定行為を含むCPA隊活動 5. 薬剤投与想定訓練 6. 気管挿管想定訓練 7. 異物による窒息症例 * 喉頭展開及び気管吸引実施 8. CPA想定総合シミュレーション(意識なし) 9. CPA想定総合シミュレーション(意識あり) 10. 総合シミュレーション	CPAに対する、迅速な判断と、適切な特定行為をMC、家族を介して実施することができるようになる。代表的なCPA症例について、実技形式により判断（知識）の理解度を確認する。	福田	
32				
33				
34				
35				
36				
37				
38				
39				
40				
41	総合シミュレーション	症例ごとに緊急度を迅速に判断し、適切な観察、処置、病院選定、特定行為などをMC、家族を介して実施することができるか実技形式により判断（知識）の理解度を確認する。	福田	
42				
43				
44				
45				
45	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆救急救命処置 I	担当 教員	福田聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 前期	2単位 90時間			
授業形態	実習			
講義の概要				
<p>基本的にPSLS、PEMECに準じた隊活動を講義を通し理解した上でシナリオに沿ってシミュレーションを行う。CPA活動なども授業には取り入れ、内因性疾患におけるCPA、脳卒中、意識障害を除く内因性疾患に対する理解を深め、救急活動ができるようにする。また、各種病態に対する救急資器材の適切な選択と使用判断が素早くできるよう進めたい。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
<p>教科書： 救急救命士標準テキスト上下巻（へるす出版）</p> <p>参考書： PSLSガイドブック2015（へるす出版） PEMECガイドブック2017（へるす出版）</p>			<p>救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート、OSCE（客観的臨床能力試験）により総合的に評価する。</p>	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1～4	特定行為 (静脈路確保/Ad投与/LT/i-gel/気管挿管)		<p>各学習課題について教科書や参考書を中心に、PCプレゼンテーションによる講義や実技形式で講義を行い、グループ内でのOSCE（客観的臨床能力試験）を取り入れ実施する。</p>	福田
5～8	拡大処置 (心停止前輸液/血糖測定/ブドウ糖投与)			
9～10	意識・神経学的所見異常評価 (JCS/GCS/CPSS/KPSS/指鼻試験など)			
11～22	PSLS（脳卒中病院前救護） (rt-PA候補/脳梗塞 軽症/脳梗塞 重傷/脳出血 重症/脳梗塞 高齢者/低血糖/熱中症によるショック)			
23	PSLS隊活動 試験			
24～43	PEMEC（内因性疾患病院前救護） (痙攣/頭痛/めまい・ふらつき/しびれ・麻痺/呼吸困難/動悸/胸痛/腰痛/血尿・束背部痛/固形異物誤嚥/悪心・嘔吐/腹痛/咯血・吐血/下痢)			
44	PEMEC隊活動 試験			
45	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆救急救命処置Ⅱ-1	担当 教員	福田聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 後期	2単位 90時間			
授業形態	実習			
講義の概要				
総合シミュレーションに向けた接遇・基本手技の基礎を確実に身につけ、救急現場活動に生かせる技術習得を目標とする。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改訂第8版救急救命士標準テキスト第1～5巻 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1, 2	オリエンテーション（規律訓練）	基本手技	福田	
3, 4	ラリングアルマスク（LM）基本手技	基本手技		
5, 6	ラリングアルチューブ（LT）・コンビチューブ基本手技	基本手技		
7, 8	気管挿管基本手技	基本手技		
9, 10	静脈路確保基本手技	基本手技		
11, 12	基本手技効果測定	基本手技		
13, 14	JPTEC（外傷病院前救護ガイドライン）基本手技	基本手技		
15, 16	JPTEC基本手技効果測定	基本手技		
17, 18	t-PA（脳血栓溶解療法）適用判断	基本手技		
19, 20	PSLS（脳卒中病院前救護）	七尾鹿島消防本部依頼		
21, 22	PCEC（意識障害病院前救護）	七尾鹿島消防本部依頼		
23, 24	想定訓練（心疾患）	基本手技		
25, 26	想定訓練（脳疾患）	基本手技		
27, 28	想定訓練（外傷）	基本手技		
29, 30	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆救急救命処置Ⅱ-2	担当教員	福田 聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 後期	2単位 90時間			
授業形態	実習			
講義の概要				
迅速・確実なシミュレーション活動を身につけ、救急現場で生かせる技術を身につけることを目標とする。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改訂第8版救急救命士標準テキスト第1～5巻 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
31	オリエンテーション（規律訓練）	接遇・観察・特定行為	福田	
32	想定1（AMI：心筋梗塞）	接遇・観察・特定行為		
33	想定2（気管支喘息）	接遇・観察・特定行為		
34	想定2（気管支喘息）	接遇・観察・特定行為		
35	想定3（多発外傷）	接遇・観察（JPTEC）・特定行為		
36	想定3（多発外傷）	接遇・観察（JPTEC）・特定行為		
37	想定4（クモ膜下出血）	接遇・観察・特定行為		
38	想定4（クモ膜下出血）	接遇・観察・特定行為		
39	想定5（腹部刺創）	接遇・観察（JPTEC）・特定行為		
40	想定5（腹部刺創）	接遇・観察（JPTEC）・特定行為		
41	想定6（異物）	接遇・観察・特定行為		
42	想定6（出産）	接遇・観察・処置		
43	総合シミュレーション	総合評価		
44	総合シミュレーション	総合評価		
45	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆救急車同乗見学実習	担当 教員	福田 聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
1年次 後期	1単位 45時間			
授業形態	実習			
講義の概要				
救急救命士の役割を救急車同乗実習 I を通して包括的に体験する。また、医療従事者としての基本的態度を学ぶ。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版）  参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
	救急車同乗実習前オリエンテーション	本校指定の実習施設で救急車同乗実習を行う。救急車同乗実習報告書を毎日指導者に提出する。レポート課題等は必要に応じて課される。	福田	
	実習施設での実習			
	救急車同乗実習後オリエンテーション			
	実習体験の発表会			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆救急車同乗体験実習	担当 教員	福田 聖司	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
2年次 後期	1単位 45時間				
授業形態	実習				
講義の概要					
<p>修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身に 着け、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得 し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。</p>					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版） 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レ ポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名	
	救急車同乗実習前オリエンテーション		本校指定の実習施設で救急車同 乗実習を行う。救急車同乗実習 報告書を毎日指導者に提出す る。レポート課題等は必要に応 じて課される。	福田	
	実習施設での実習				
	救急車同乗実習後オリエンテーション				
	実習体験の発表会				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆救急車シミュレーション実習	担当 教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数			教員室
3年次 後期	3単位 135時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	実習			
講義の概要				
救急車内の機材・装備を理解し、救急車内でスムーズに救急活動ができるようにする。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 随時、配布する 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1～5	内因性疾患シミュレーション（脳疾患）Ⅰ		各学習課題について実習形式で行う。	福田
6～10	内因性疾患シミュレーション（脳疾患）Ⅱ			
11～15	内因性疾患シミュレーション（心疾患）Ⅰ			
16～20	内因性疾患シミュレーション（心疾患）Ⅱ			
21～25	内因性疾患シミュレーション（消化器）Ⅰ			
26～30	内因性疾患シミュレーション（消化器）Ⅱ			
31～35	心肺停止想定シミュレーション（脳疾患）Ⅰ			
36～40	心肺停止想定シミュレーション（脳疾患）Ⅱ			
41～45	心肺停止想定シミュレーション（心疾患）Ⅰ			
46～50	心肺停止想定シミュレーション（心疾患）Ⅱ			
51～55	心肺停止想定シミュレーション（消化器疾患）Ⅰ			
56～60	心肺停止想定シミュレーション（消化器疾患）Ⅱ			
61～65	心肺停止想定シミュレーション（溺水）Ⅰ			
66, 67	心肺停止想定シミュレーション（溺水）Ⅱ			
68, 69	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆臨床見学実習	担当 教員	福田 聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 後期	2単位 90時間			
授業形態	実習			
講義の概要				
<p>修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身に 着け、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得 し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版） 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レ ポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
	臨地実習前オリエンテーション		本校指定の実習施設で臨地実習 を行う。臨地実習報告書を毎日 指導者に提出する。レポート課 題等は必要に応じて課される。	福田
	実習施設での実習			
	臨地実習後オリエンテーション			
	実習体験の発表会			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆臨床体験実習	担当 教員	福田 聖司	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
3年次 前期	3単位 135時間				
授業形態	実習				
講義の概要					
<p>修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身に 着け、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得 し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。</p>					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 随時、配布する  参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レ ポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名		
	臨地実習前オリエンテーション	本校指定の実習施設で臨地実習 を行う。臨地実習報告書を毎日 指導者に提出する。レポート課 題等は必要に応じて課される。	福田		
	実習施設での実習				
	臨地実習後オリエンテーション				
	実習体験の発表会				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆総合シミュレーション実習 I	担当 教員	福田 聖司	連絡先	
				教員室	
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
3年次 前期	2単位 90時間				
授業形態	実習				
講義の概要					
学校敷地内、様々な場所にて外傷シミュレーション実習を行い、救急活動に活かす。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 随時、配布する  参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名	
1～3	外傷シミュレーション（特殊な受傷） I		各学習課題について実習形式で行う。	福田	
4～6	外傷シミュレーション（特殊な受傷） II				
7～9	外傷シミュレーション（特殊な受傷） III				
10～12	外傷シミュレーション（小児外傷） I				
13～15	外傷シミュレーション（小児外傷） II				
16～18	外傷シミュレーション（小児外傷） III				
19～21	外傷シミュレーション（高齢者外傷） I				
22～24	外傷シミュレーション（高齢者外傷） II				
25～27	外傷シミュレーション（高齢者外傷） III				
28～30	外傷シミュレーション（妊婦外傷） I				
31～33	外傷シミュレーション（妊婦外傷） II				
34～36	外傷シミュレーション（集団災害） I				
37～39	外傷シミュレーション（集団災害） II				
40～42	外傷シミュレーション（集団災害） III				
43～45	まとめ				

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆総合シミュレーション実習Ⅱ	担当 教員	福田 聖司	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
3年次 前期	2単位 90時間			
授業形態	実習			
講義の概要				
学校敷地内、様々な場所にて心肺停止シミュレーション実習を行い、救急活動に活かす。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 随時、配布する 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1～3	内因性疾患シミュレーション（脳疾患）Ⅰ		各学習課題について実習形式で行う。	福田
4～6	内因性疾患シミュレーション（脳疾患）Ⅱ			
7～9	内因性疾患シミュレーション（心疾患）Ⅰ			
10～12	内因性疾患シミュレーション（心疾患）Ⅱ			
13～15	内因性疾患シミュレーション（消化器）Ⅰ			
16～18	内因性疾患シミュレーション（消化器）Ⅱ			
19～21	心肺停止想定シミュレーション（脳疾患）Ⅰ			
22～24	心肺停止想定シミュレーション（脳疾患）Ⅱ			
25～27	心肺停止想定シミュレーション（心疾患）Ⅰ			
28～30	心肺停止想定シミュレーション（心疾患）Ⅱ			
31～33	心肺停止想定シミュレーション（消化器疾患）Ⅰ			
34～36	心肺停止想定シミュレーション（消化器疾患）Ⅱ			
37～39	心肺停止想定シミュレーション（溺水）Ⅰ			
40～42	心肺停止想定シミュレーション（溺水）Ⅱ			
43～45	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目

科目名	☆総合シミュレーション実習Ⅲ	担当 教員	福田 聖司	連絡先
対象学年	単位数			教員室
3年次 後期	2単位 90時間			質問受付時間・場所等 随時・教員室
授業形態	実習			
講義の概要				
学校敷地内での様々な内容のシミュレーション実習を通して、各疾患に対する救急救命処置を理解し、隊の一員として、チームの中で活動できるようにする。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 随時、配布する 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1～3	ドクターヘリ・ドクターカーの連携Ⅰ		各学習課題について実習形式で行う。	福田
4～6	ドクターヘリ・ドクターカーの連携Ⅱ			
7～9	ドクターヘリ・ドクターカーの連携Ⅲ			
10～12	集団災害時の対応Ⅰ			
13～15	集団災害時の対応Ⅱ			
16～18	集団災害時の対応Ⅲ			
19～21	災害時のトリアージⅠ（1次トリアージ）			
22～24	災害時のトリアージⅡ（2次トリアージ）			
25～27	災害時のトリアージⅢ（まとめ）			
28～30	DMATとの連携についてⅠ			
31～33	DMATとの連携についてⅡ			
34～36	DMATとの連携についてⅢ			
37～39	総合応用シミュレーションⅠ			
40～42	総合応用シミュレーションⅡ			
43～45	まとめ			

☆ 実務経験のある教員等による授業科目